

平成 30 年度 第 3 回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日 時：平成 31 年 2 月 19 日（火）14 時 00 分 ～ 15 時 50 分
- 場 所：市民交流プラザ 5F 中会議室
- 出席委員：松原座長、北中副座長、肥塚委員、岡本委員、堀江委員、服部委員、
肥田委員、青木委員、松浦委員、武田教授（及川委員代理）
- 欠席委員：及川委員（代理出席有）、中村委員、加藤委員、神部委員、秦委員、遠藤
委員、深尾委員
- 事務局：千代理事、本村調整員、中瀬参事、溝内参事、中西主査

1 開会

【事務局】

皆様こんにちは。本日は御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、これより平成 30 年度第 3 回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきたいと思っております。本日は傍聴者がおられませんので御了承いただきますようお願いいたします。

まず、配布資料の確認をさせていただきます。本日の次第と資料および参考資料でございます。皆様のお手元にごございますでしょうか。

次に本日、当センター長で立命館大学の及川委員が御欠席の為、代理といたしまして当副センター長で立命館大学の武田先生に御出席いただいております。よろしくお願いたします。また、草津市まちづくり協議会連合会の中村委員、草津商工会議所の加藤委員、滋賀大学の神部委員、滋賀県立大学の秦委員、京都橘大学の遠藤委員、龍谷大学の深尾委員より御欠席の連絡をいただいております。毎回、御欠席者の皆様には、懇話会終了後に資料および議事録を送付した際に、御意見をいただくようにさせていただいておりますので、今回も同様にさせていただきます。

議事に入ります前に、草津未来研究所副所長の千代から一言御挨拶させていただきます。

【千代理事】

雨の中また年度末差し迫る中、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。当センターは今年度、健幸都市に基づき、情報・交通・文化・自然の 4 つのテーマ

を掲げ、スクールやセミナーまた社会実験事前調査事業等を実施してまいりました。また、開設から2年半が経ちまして、オープンスペースの利用も徐々に増えてき、試行錯誤しながらアーバンデザインセンターの周知を行ってきました。その一方、アーバンデザインセンターはまだまだ改善していく点があるかと思えます。本日は委員の皆様のご意見をお伺いいただき、皆様から親しんでもらえる、あるいは皆様に積極的に使っていただけるアーバンデザインセンターとして皆様と共に育てていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、進めてまいりたいと思えます。次第1、開会にあたりまして、座長の松原先生から御挨拶をいただきます。

【座長】

皆さんこんにちは。年度末の大変御多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。アーバンデザインセンターは西友1階に移転しまして、ほぼ一年半が経ちました。この間オープンスペース利用も増えてきて、私どもといたしましてはアーバンデザインセンターの一つの基盤作り、土台作りを着々と行ってきたのかなと思っております。本日は平成30年度に行ってきました事業報告と次年度に向けての方針案について議論をお願いしたいと思います。併せて重要な議題がありまして、法人化検討ワーキング部会の報告を受けたいと思えます。本日も委員の皆様から活発な御意見をいただきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

2 平成30年度事業実施状況について

【事務局】

ありがとうございました。では、これより先の進行につきましては、松原座長をお願いしたいと思います。松原座長宜しくお願いします。

【座長】

それでは、議題の2番目でありまして、平成30年度の事業の実施状況について事務局から報告をお願いいたします。

(事務局から、資料に基づき説明。)

【座長】

ありがとうございました。平成30年度の事業実施状況について報告いただきまし

た。このことについて、御意見、御質問をお願いしたいと思います。

【A委員】

イベント参加者数773名というのは、1年間での参加者数ですよね。これがいいと思っているのかということと、あと、オープンスペース利用者7,794名をこれでいいと思っているのかをお聞きしたいです。本音を言いますが、オープンスペースは自習室と化しています。それを目的としているなら全然いいです。私もフリーでミーティングもいつでもできて自由に人と話せるという点では非常に助かっているんで、そのような良いところだけを求める市民の立場から言えば何も文句はありません。しかし、駅前のあの一等地の場所で快適にいつでも使えることは良いのですが、それは本当に税金を使ってやるべきことなのかと思います。それから、イベント参加者数773名について、イベントやセミナーをするためにUDCBKがあるのであれば、この数字は非常に少ないです。正規職員が3名おられて嘱託職員さんがおられて人件費だけでも多分二千万円はかかっているはずなので、レンタル料からしてもそれが高いのかどうか分かりませんが、それを議員さんに聞きたいのですが、運営費はそもそもいくらかかっているのですか。五千万円とか六千万円をかけてこの内容で運営していることは、税金を垂れ流しすぎているのではないかと思います。私は頻繁にUDCBKに通って利用していますが、この地域に住む人としての意見として言いたいです。ここにいらっしゃる方はセミナーの時には来るかもしれませんが、日常は来られないですし、どのような形でUDCBKが利用されているか分からないでしょうし、いつも思いますが一週間ずっとUDCBKに張り付いて見ていたら、これだったら本当にこれだけのお金を投入しないといけない建物なのかなと思います。そして、イベント参加者数773名についてですが、私が主宰しているNPO法人は活動拠点が全くなく、市民センターを実費で借りて活動しています。そのイベント参加者は年間7,000名です。以上です。

【B委員】

センター長代理として話しますが、利用者数について、それだけの人数で良いのかと言われると難しいのですが、ここで確認しておきたいのは、アーバンデザインということが都市の空間をデザインしていくということで、南草津の駅を降りても、人が滞留できる空間はほとんどありません。魅力的だな、と思う街に行くと、やはり滞留している人々がいたり、語らっている人がいたりします。そのような空間が

ある都市空間を作っていくことが、アーバンデザインとしては重要だと思っています。そうした空間を提供することは、アーバンデザインセンターが一手に引き受けてやるべき事ではないと思っています。しかし、やはり市の事業として現在の場所に UDCBK がある事により広場的な空間が生まれているということは、例えば公園を市が持っているということと同じように、市にとって非常に大事な意味をもっているのではないかと思います。あのような空間を持って、何の為だと批判する向きがあるとしても、それすら引き受けて、あの場所にあの空間を開いているということは、市として、一つの大きな、重要な役割を果たしているのではないかと思います。できるのであれば、そのような空間がもっともっと増えていくような事が、アーバンデザインの観点で望ましいことだと思います。しかしながら、近代的な街では、交通というものは量と線と点の位置情報だけで語られ、計画されてきています。そうした状況で、歩行者空間というのは、なかなか勝手に広げられるものでもありません。だからこそ、まずはどのようにしてこのまちの都市空間が成立してきたのか、そのようなことについて少しでも発信していけば、賛同してもらえる人に集まっていただくことができ、議論をしていくことができる、そのようなコミュニティをつくっていきたいと思っています。私は、あのような UDCBK の空間がある事は市として非常に尊い事であると思いますし、いきなり何千人集まるから価値があるというのは違うのではないかと思います。どのように発信すれば良いのか、なかなか難しいと思いつつも、なんとか繰り返し発信しながら、少しずつそこを自分たちにとって良い場所であると感じたり、何か情報をキャッチできる場ではないかと期待していただいたりするようなことを含めて、少しずつ認知は広がっているのではないかと、これはこれなりに成果が出てきているのではないかと感じています。もちろん改善しなければならぬ事はあるはずです。その為にも、運営懇話会は、来年度に向けてどのようにすれば良いのか、アイデアをもっと出し合える場であることが望ましいと思います。

【A委員】

私たちは UDC が必要だとわかった上でやっています。本当にこういう施設が要りません、4年前に肥塚先生が運営懇話会で言われた UDC の理念が本当に必要だと思い、市民はみんな頑張って UDC があれば良いなと思ってやってきているので、それをもう少し市が理解してきちんとやってほしいなと思います。特にこの1年は本当にそ

のように思っています。なぜなら、完全に自習室になっているからです。

【C委員】

昨年と比べてどうなのかを、この数字の事をA委員が言われたので、事務局としての評価をコメントしていただいた方がよいかと思えます。これは活動状況報告ではありますが、どのように見ているのかを教えてください。

【事務局】

数字が多い少ないという部分については参加者だけでみると、定員30名で募集をしても定員に達しない事もありますので、その観点から見ますと目標に達していない数字になってくるかと思えます。今まで実施してきた中で参加されている方の意見が上手く集約できていないところもあったかと思えますし、参加だけでなく、日常御利用されておられる方とのコミュニケーションや、その方が持つておられる御意見の吸い上げができていない所もあったのではと思えますので、そのような点を改善しながら次年度に向けて様々な展開を図れる形をとっていこうと考えています。多い少ないで物事を見るのではなく、利用者の方から一緒に何かやりたいというような御意見がもっと届くような関係作りは必要になってくると思っています。行政から問題提議をする事もありますが、市民の方から、このような事がしたい、このような街にしたいという話の根源になるような対話をしていかなければ、なかなか声が拾えないと思っています。

【A委員】

やりたい事を紙に書いてみたり、仕組みを作れば良いと思えます。今は何の仕組みもありません。

【事務局】

先ほども説明しましたが、セミナー等で利用して出てきた意見を壁面に貼り、利用者に声を掛けさせてもらい意見集約をしています。声を掛けさせてもらう事で、セミナーの内容はどのようなものだったのですかと利用者との対話が生まれ、そこから、それなら私たちはこんな事をしていますということや、こんな事をしてみたいですといった意見など、次に繋がる可能性はあると思っています。

【D委員】

今、利用者数のお話がありましたが、私は利用者数の話より少し違う視点でお話をさせていただきたいと思えます。空間をデザインしていくという視点で、このよう

なスクールやセミナーが実施されております。そこで成果があったと思うのですが、その成果は市民が力を合わせて取り組んでいこうと、団結して行われたものがあるのか、そのような成果があるのか、あるいは行政の方でもう少し担ってもらわないといけないと行政の方に課題を預けているような事があるのか、このような視点から報告いただけたら有り難いと思います。

【事務局】

ありがとうございます。事業の最終版としましては、翌年度の第1回目の事業運営懇話会で全てまとめさせていただき、どのような部分を担ってきたのか精査をさせていただきますので、今皆様に御提示できるものは準備しておりません。ただし、日々の会話の中で聞き及んだ事は、行政であれば担当課に伝えていくこともありますし、個人情報がありますが、他の利用者の方に活動をお知らせしてもよいと言われた場合はお伝えできますよと言わせていただいております。市民の方につきましては、現在途中ではありますが学生と進めている企画があります。なかなか人は集まらないのですが、Facebookで企画の打合せをする日時をお伝えしたりしています。このような事を繰り返し行っていくことで、今まで繋がっていなかった方同士の繋がりが生まれてくるのではないかと考えています。ただ、このやり方が正解と決めつけてはいません。様々な事を試みてみないとそれが合うのか合わないのかはわからないと考えております。

【D委員】

今、後半で全て上手くいくわけではないと言われましたが、その通りだと思います。進んでいきそうだなと思われる部分や、これはまだ議論を深めていく必要があるなと思われる部分を精査して、次の年に繋げていただければと思います。

【B委員】

今年度実施した事が次年度に繋がっていかねばならないのですが、例えば前期のアーバンデザインスクール「歩いて巡る地域の魅力の伝え方」では、いくつかのルートのアイデアが出ている一方で、次年度には標識のアイデアを出すような話も上がったりしています。行政がやろうとされている事に繋げる道筋づくりというか、そのような議論はしていくのが良いと思います。後期のアーバンデザインスクール「情報と都市」では、交通関係の滋賀県の方にもおいでいただいて議論をしたりしていますので、そのような議論を一つのプラットフォームの始まりとして交通に関

して少しみんなで考えられるような事を考えたり、交通の問題は個別でもしていますので、交通という切り口で実施したら来る人、情報の切り口で来る人、来る人の関心も違う所があるので多面的な事を繰り返していく事で何か新たな事ができないかと考えていけるのではという議論はしています。

【E委員】

毎回、事務局泣かせの意見も出ていますがこれがこの会の良い所だと思っています。この御意見はこの会の期待の裏返しでもっと良い事ができるのではないかと考えています。その意味で事務局側に立つような発言もいたしますが、未来創造セミナーでSDGsのキーワードで複数回でビックネームをお呼びいただいてセミナーが開催されております。加えて、傍聴席の方々を拝見しておりますと複数名の方がSDGsのバッジを付けておられ関心の高い方がお越しいただいていると理解しております。D委員がおっしゃったところですが、こういったSDGsというキーワードから今年度10回セミナーを開催いただいて、なかなか成果というものはずぐには言えないでしょうが、日経新聞でも一面に2枚、2千万円かけてSDGsだけで一面とるような記事が昨今本当に多くなってきました。奉仕型の社会貢献というCSRというキーワードが、明らかに平成の次の元号はSDGsがキーワードになってくるかと思えます。事務局からこのキーワードから何か気づきがあれば御発言願いたいと思います。

【事務局】

SDGsには関心の高い方もおられますし、大学生をはじめ、企業の方や市民の方と上手く連携をとれるというか、交わって開催できているのではないかなと思っています。市の方でも、都市再生課とまちづくり協働部で実施されてます、福島県伊達市の児童との交流の際にSDGsを取り入れるということで、その際、UDCBKを使用できないかの御相談もいただいておりますので、できれば一緒に取り組んでいきたいと思っております。様々な所から繋がりが出てきていますので大事にしていきたいキーワードだと思っております。

【E委員】

立命館大学では、昨年9月にSustainable Weekを実施され、非常に大々的に学生が発表され、滋賀県知事も行かれてますし、大きなイベントをされています。滋賀銀行もそこに協賛し、経済同友会が大々的にこのSDGsを取り上げており、例えば我々民間企業ですと17の目標のうち、7番から12番を積極的に頑張ろうと色ん

な形で盛り上がってきていますので、このようなところを今度プリムタウンもできますので、南草津がさらに盛り上がる一環として、持続可能な社会作りとして頑張っていたらと思います。

【A委員】

その学生は最初は UDCBK にいました。彼らが育って今のようになっています。本当にあの場所で繋ごうと思ったら誰でも繋げられます。繋げていないから意見しているだけで、繋げてくれる人を早く配置してください。

【D委員】

SDGs のお話をいただいて、この取組は新しい事をやらないといけないと思われる方が多いのですが、実は立命館大学は今までにある事に対して SDGs として取り組んでいこうと実施しています。実は現在作成しております、地域連携事例集には全てのページに SDGs の項目を掲載しています。一つの事例ですが、立命館大学の留学生が野路の新宮神社のお神輿を担がせてもらっています。ここにも SDGs のマークがつくのです。あるいは、学生たちが狼川の清掃作業をしていますが、水を守ろうと番号がついていくわけです。ですので、私は次の課題になると思うのですが、次の提案として、今草津市が取り組んでいる事にみんなで番号を付けていくことで、とてもたくさん番号が付くということに気付く、このような取組からでもいいんじゃないかと思ったりします。

【A委員】

そもそも人生そのものが SDGs だと思います。UDC の理念が SDGs なので、他の課がどうこうではないと思います。もっと勉強してほしいです。

【座長】

今日の議論で一つはオープンスペースの利用者 7, 794 人、イベントの参加者 773 人、これについては数字だけでなく内容がどうなっているかが大事ではないかと今日の議論の中で共通して言えるのではないかと思います。その中身をどのように見るかを掘り下げた各委員からの発言があり、どのようにまとめをするか内容を掘り下げていくのがまず一つ。もう一つの点は、一つ一つの取組が次にどのように繋がっていくのかという視点が重要であり、そういう点ではこの一年半やってきた取組がまだ点として散在しており、その点同士を繋げたら線になるという、点か

ら線に繋がり始めたのが現状ではないかと思えます。それをさらにどのように発展させていくのかという視点が、やはりこの UDC というまちづくりが重要な目的なので、その点では都市デザインと言いますか、まちづくりの中で一つの大きなキーワードは SDGs、これは当然大きな軸になってくる、ここはおそらくみなさん共通して理解があると思っています。ただ、問題はそれを具体的な形にしていくのかという点が十分に見えていないところがあるので、そのような点について、次に繋がるヒントになるような発言も述べていただいたのではないかと思います。事務局の方でも今日の議論を受け止めていただいて、重要なのは次年度ですので、今年度やった事がきちんと繋がっている、成果として表れていく事が大事だと思います。

【F 委員】

先ほど UDCBK を見に行きましたら地元の方々が利用されていました。このようにオープンスペース、サードプレイスという意味合いを持ちながら南草津の駅前ですていただけるのは大変重要であると考えております。今後につきましては、来年度の予算にも活用ということですが、本市が進めております健幸都市くさつの活用の中で、UDCBK を活用させていただいた事業も色々と検討しておりますので、ただ今御意見いただきました事につきましては来年度に繋げていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【B 委員】

いろいろな事やっつけていかなければならないと思えますが、それらが繋ぎ合わさって見えてくるために、広報や情報発信のやり方について、少しでも自由度を与えていただくことはできないものかと思えます。これは、センター内部の話ではなく、市の事業としてどのように特別扱いするかという事になるかもしれないのですが、例えば、チラシを配るとかやっちはいけないのかと考えたりするのですが、配れば直ぐに人に伝わるし、それから HP もセンターの内容は Facebook には掲載しているのですが、HP にリアルタイムにこのようなイベントがあるとか、便利なカレンダーがあるとか、そういう事も自由にできません。それで人が来ないだろうと言われてるのはしんどいなと思えます。それでどれだけ集まるのかとまた御指摘を受けるかもしれませんが、アーバンデザインセンターでやっている事は特定のテーマに対して、極端に強く焦点をあてる事も多いので、まちづくりとはいえ、単なるコミュニティデザインではありませんので、情報の扱いの工夫を考えてもらえたらと思

ます。

【座長】

今、B委員から言われた情報発信ですが、アーバンデザインセンターはいろんな事を行っているのだけど、もうひとつ見えてこないの、見えるようになると、参加してみようと思われる方も増えて様々な提案が生まれてくるのではないかと感じます。

【F委員】

アピールは重要だと思います。皆さん御存知だと思いますが、南草津駅改札前にパナソニックさんのデジタルサイネージがございます。このような物も活用しながら、広報の方法については来年度考えていきたいと思っています。

【座長】

この議題について何か他に御発言ございますでしょうか。それでは、平成30年度の事業報告はこれで終わりいたします。これは、次の議題でもあります次年度事業にも関連してきますので、こちらの方に御意見いただけたらと思います。

それでは議題の3番目の平成31年度実施事業を事務局から報告していただきたいと思っています。

(事務局から、資料に基づき説明。)

3 平成31年度実施予定事業について

【座長】

平成31年度実施事業の柱建てを報告していただきました。これは案ですので、これを基にして意見をいただきたいと思っています。あと、社会実験準備事業についてですが、資料4ページ、5ページに書かれていますがこちらの説明をしていただけたらと思います。

【事務局】

こちらについては、平成30年度からテーマを大きな枠組みで提示していますので、あまり絞り込んだりせずに、大きなテーマの中から皆様に御提案いただきたいと思っております。ただ、健幸都市の関係で「楽しく歩ける路面表示のデザイン」を考えておられますので、こちらのデザインを行政主体で作るのではなく、皆様からの御意見を反映させていきたいとの事でしたので、テーマの中に組み入れております。

【座長】

という事は平成30年度の募集テーマを基本的には踏襲しているという事ですね。その上で、1番最初のテーマについては今回新しく追加しているという事になりますね。全部で7つのテーマの原案を上げていただいていますので、これについても御意見をいただけたらと思います。

【G委員】

プリムタウンはどこが主導されているのですか。

【F委員】

プリムタウンは区画整理事業でして、約32haの土地で事業を進めておりまして、平成34年までかけて、約900戸の住宅が建つ予定でございます。ここは区画整理組合がされており、草津市の担当課も関与してまちづくりを進めていっている状況であります。

【G委員】

企業は入っていないのですか。

【F委員】

区画整理ですので、地元とそこに企業も入っておられます。

【G委員】

UDCBKのグランドデザインのようなものはあるのでしょうか。ある程度市民から意見を聞いて吸い上げていくのであれば、まずは色々してもらうための勉強会やセミナーをやって、何年から経過したらその吸い上げた意見を都市計画に活かしていく等の中期計画や、5年、10年後の草津市のあり方を考えた上で1年目、2年目はこれをしますという事業計画に則った展開になっているのか、あるいは1年ごとの繰り返しなのかどちらなのでしょう。私としては中期計画を立てて、例えば5年の計画であれば、3年経過したのでこれをやってみましょうかと、法人化の問題とも関わってくるかと思うのですが、中期計画のようなものがないと、いつまで経っても勉強会で終わり、実行に移せないのではないかと思います。ロードマップのようなものがあればいいのではないかと思います。

【C委員】

UDCBKが設立されてから今日まで、ここに書かれている事業を行ってきたのですが、

そろそろ都市のパブリックスペースの質の向上を考える時期になってきたのかと思います。具体的な事業の中で、例えばここでは公園となっていますが、パブリックスペースをみんながどのように活用していくかを考える事を具体的な事業を展開する中でみんなで考えていくのが UDCBK でやるべき事なのだと思います。もちろん勉強や交流、また集まりも重要な事だと思いますが、ここでは都市デザイン連携プロジェクトとなっていますが、事業に取り組んでいく中で、実際に UDCBK が行っていないかなければならない事を理解してもらいたいと思います。取り組んでいくとなると、そう簡単にはいかず、先ほど御説明がありましたが、4年ほどかかりますのでかなり長い期間の取組になっていきます。全国の UDC の取組をみるとわりと長めの事業の中でパブリックスペースを考え、それを自分の住んでいるところに置き換えたらどうなるのだろうと考えていくようにこの事業が提案されていると思います。中期的な計画を立てることは重要だと思いますが、まだそこまでいっていない状況かと思います。

【A委員】

平成31年度は4月から始まるのですよね。年度すぐの事業で資料の1番都市デザイン連携プロジェクト、2番交通のまちづくり、3番大学を活かしたまちづくりと記載されているのですが、これで何をやるのか分かるのでしょうか。予算も記載されていません。どれぐらいの金額をかけてやるのか。例えば1番、対象地域の諸問題に関わり、地域の方々と協働し問題解決を図るといのは、具体的には何をやるのですか。普通、こういう事業をするからこれだけお金がいる、その費用対効果がどれだけ期待されるから事業を実施するという流れになると思います。市民が提案する場合は予算もつかないですし、補助金ももらえないのに、UDCBK だけはこれだけの内容であの大きな建物が1年動くだけの予算がおりののですか。セミナーやスクールはフェリエ南草津の会議室を借りてもできますよね。月に1回、週に1回のセミナーをこの会議室でやらずにオープンスペースをずっと年間開けておいていたい何をやるのか知りたいです。それは、この懇話会で示されなければどこで示されるのですか。議会で議員さんが聞いたら教えてくれるのですか。市民にはどこのタイミングで発表されるのですか。

【B委員】

事業運営懇話会でそういう議論をすれば良いのではないかと思います。

【A委員】

お金はどこにも出てこないんです。

【B委員】

お金はもちろんここでは出てこないですよ。

【A委員】

でも、知りたいです。これが30万円だったら全然良いです。

【B委員】

お金の話がメインじゃないと思いました。お金の話がメインなら、今の発言は取り下げます。お金の話をする場所じゃないと思います。例えば大学でもっとここを使わせてくださいって事を話す場でもないですよ。

【A委員】

では、私の質問はこの1番、2番、3番からはいったい何をするのかわかりません。

【B委員】

具体的には何をするのか教えてほしいって事でしょうか。

【A委員】

そう優しく言えばいいのですね。

【B委員】

御発言ごとに行政に対する苦情を述べられていては、UDCBK 運営懇話会の事務局としては対応に困ると思います。

【A委員】

わかりました。

【座長】

事業運営懇話会では次年度どのような事をやるかという方針について議論する場であって、予算については当然議会で審議されますのでここでは議論しません。むしろここで議論するとおかしな事になります。

【B委員】

この内容が曖昧だと強調されると困るのですが、まず、1番の都市デザイン連携プロジェクトについて言えば、例えば、区画整理の扱う対象には公園も道路も川もあります。それらの設計を上手くコーディネートできる街ができるといいじゃないで

すか。新しい街区が計画される時はチャンスです。南草津駅前などはもう出来上がっているのですが、プリムタウンはこれからつくる場所ですので、事業者と行政の各セクションとが上手く連携してもらえれば、例えば緑の空間と市民の生活とを上手く組み合わせられるようなデザインを促進できるかもしれない。

【A委員】

それをUDCでやるって事ですか。

【B委員】

UDCでやると言った時にアーバンデザインセンターのメンバーが私なんかも入っていますけど専門家として、組合のみなさんと市と調整する場を共有する事を始めています。事業が進むタイミングにもよりますので、定期的にスケジュールを簡単に立てられませんので曖昧ですが、お付き合いしながら進めていきます。これは相手のある事なのですが、他のUDCでもやっています。大宮でもやっていますし柏の葉でもやっていますし、その全てのことに市民が参加する形ではやってないです。アーバンデザインセンターとして専門家が出入りして、コンサルティングにも関わりながらやっていこうということです。そこに、専門家が市民を巻き込みながら行っています。アーバンデザインセンターは市の事業であるけれど、外に出ているのだから、水飲み場みたいに人も集まりやすいんじゃないですかみたいな感じでやれたらいいですね。本当はその為に法人化しなければいけないんですよ。そのような事をプリムタウンではやっています。連携プロジェクトであっても、連携だからといって全てのことに市民の一人一人が関わるとは限らないんです。この事はまずはわかってください。

【A委員】

事業の3つだから、ここは聞きたいです。

【B委員】

新たに加わったというところで指摘されたと思うので。これは都市連携プロジェクトと書いてあるようにプリムタウンプロジェクトではないので、例えばここをプラットフォームにして普段だったら事業者の内輪だけでやっている事を、もう少し関係者と話し合うとか、例えば大学の方で同じような動きもあるようだからそことも話し合うようなのを持ってきてもらったらここで一緒にできたらいいなどの思いから、プリムタウンプロジェクトでなくて、都市デザイン連携プロジェクトにしてい

ます。

【座長】

今の1番の所ですが、書き方がまだ曖昧になっているのですね。

【A委員】

曖昧すぎます。

【座長】

「まちづくりや草津市版地域再生計画の対象地域の諸問題に関わり」という、このあたりの書き方を具体性をもって、どこまで書けるかわかりませんがこの文面だけではわかりにくいというのは確かにその通りだと思います。

【B委員】

これは具体的にするだけでなく、もしかするとどういう意味を持ってやっていて、プリムタウンだけじゃなくて他にも普遍できる、参加できるプロジェクトなのだと加えるようにします。

【D委員】

空間デザインの空間の捉え方が人によって色々違うのだと思います。私自身、人と人の集まりによって様々な物が作られていくと思っています。根底にある、人とのように関わっていくかというデザイン作りが重要だと思っています。それによってC委員が言われている事が出来上がっていくのだと思っています。そのスタンスでお話しさせていただきたいのですが、現在、立命館大学では約8,000人の学生が下宿させていただいております。これは野路や笠山の方々が支えていただいております、これによって安心安全の生活ができている事に非常に感謝しております。留学生が住むエリアは大津市なんです。この大津市松が丘の住民たちが留学生をいかに大事にしてくれているかという議論をしているところなのですが、何が言いたいかと言いますと、人が大学を支えてくれますし、また、大学が人を支えていくこともやらなければならないと思っています。そういう意味でギブアンドテイクの考え方が出てくるのだと思います。草津のまち、あるいは大津のまちというのは、2040年まで人口増加していきますので、昨年もここで話をしたのですが、この人口増加には二通りあって、1つはこれまで住んでおられた方が高齢化していく。これは大きな問題です。新しく入られた方がどんどん増えますが、実はこれから20年経ったら、この新しく入られた方も高齢化していくわけです。これは大きな課

題でありまして、今、町内会がしっかりしている所にお住まいの方々は高齢化していった時にみんなで助け合いという文化がありますので住みやすいと思います。ところが、新しく来られた方はまだ町内会組織が確立していない所で高齢化していくと独居老人が増えていく可能性があります。これは大変な課題になるのではないかと思います。草津の今の課題はこの2つの課題をどのようにして解決していくか、人と人との関わりをどのように作っていくのか、新しく来られた方々のコミュニティをどのように作っていくのが大事だと思います。立命館大学の学生たちは野路の町内会館へお世話になったり、笠山の町内会館に行ったり、まちづくりセンターへ行ったりして市民の方と交流をさせていただいております。新しい方々はどこで交流するのか。私はここを、特に両かっこ1番で書かれているプリムタウンだけでなく、駅周辺の新しく入られた方々のコミュニティをどのように作っていくのかと、もう少し膨らませた方がいいのではないかと、そうすると空間もできあがるのではないかと思います。この話をなぜ強調するかというと、えふえむ草津の会議がありまして、草津の防災について真剣に議論されています。従来からおられる方は物資がどのように動くのか理解されていますが、新しい方々はどう動くのかわからないわけなんです。では、新しい方にどうしたらよいかと考えたら、えふえむでどんどん発信していくしかない、ここでもっと担っていこうと話しています。私は1番の所はもう少し広めていただいた方がいいと思います。3番の大学を活かしたまちづくりプロジェクトは、大学は全てに関わるので特別このような項目をおかなくてもいいのではと思います。

【F委員】

話が戻って申し訳ないのですが、平成31年度実施予定事業はあくまでも予算を伴うものですので、2月議会で議会とも相談しながら決めていくのですが、先ほどおっしゃっていただいたようにプリムタウン単体ではなく、もっと広げてという御意見や防災についての御意見はその通りだと思います。ただ一点だけ個別でプリムタウンを言わせていただきますと、ここには都市公園が5カ所入ってきますし、十禅寺川の緑化計画などを含めた中で市の方としましてはUDCBKと組合との関わりをもっと深めていくことで動いておりますので、今後この事を含めてこの場の中で御議論いただきたいと思います。

【E委員】

プリムタウンですけど、民間の発想からすると、既に施工する業者や移設される施設もある中で、ここで議論する提案事項が活かせる事があるのでしょうか。民間的に考えると勝手に業者が開発していくイメージなのですが。

【F委員】

おっしゃる通り、あくまで民間の区画整理事業ですが、それに対して意見は言えますし、用途や区域区分についても都市計画審議会で諮られてまいります。ただ、先ほどお話した所は市が考えていく所ですので、市がイニシアチブを執っていく所で活かせていけるかと考えます。公共施設につきましては当然市が管理していく立場ですので、その部分については様々な御意見をいただきたいのですが、ただ現実問題として区画などは決まっていますのでそこを変えていく事は不可能です。公園の整備などについては議論の余地があります。

【A委員】

プリムタウンではないですけど、15年前にマンションが建ち、新しいまちができて引っ越してきました。15年前からの課題やこんなまちになってほしいとヒアリングなどをしてもらってUDCBKができたと理解しています。人と人の繋がりはとても大事なことでソフト面で地域の人たちのためになるような施設を作るという大きな想いがあったのに、それを今活かしていないのに次にプリムタウンを考えるのは上手くいくとは思えないので、もっと先ほど言われたように、結局人なので、人と人がきっちり繋がって回せる場所を作ってほしいと思います。

【B委員】

経緯について、見方は立場により色々あると思います。しかし、ここが「アーバンデザインセンター」であることが重要だと思います。人が作るまちである事は理解しています。このアーバンデザインセンターをつくる時にきっかけとなった議論の中にありましたが、草津は住みよい街としてナンバーワンであるにも関わらず、誇れるまちというような項目が弱かったのです。それは、駅を降りた時の風景だったり、どうして駅前が魅力的でないのかということがボディーブローのようにまちの経済や防災に効いてくると思います。そのような事を考えていくと、人と人の繋がりだけやるのはある意味泣き寝入りなんです。街は出来てしまっているから変えられないからこの中で人の繋がりをなんとかしていこうとなっていくのです。

【A委員】

ハードを変えられないからですか。

【B委員】

そうです。しかし、ハードの事をみんなで理解することで、今すぐには変えられないかもしれないけど、5年後、10年後には、もしかしたら南草津でまた、区画整理が行われるかもしれない。そのような時のために、みんなで話しあえるリテラシーを高めて、様々な案を作ったりして、議論しておこうと。そういう事が一方で大事なのだと思います。それがアーバンデザインセンターの分かりやすい目標の一つなので、住んでいるとやはり都市は人だから人まで広げて一番大事なのは命だからとなっていくと、アーバンデザインセンターをアーバンデザインセンターネットワークに載せてわざわざ作った意味が薄れてしまいます。

【A委員】

それなら毎日それに関することやったらいいんですよね。あのフリースペースで。だからもっとやってほしい。市民は全然参加するし、こういうの全然好きです。

【B委員】

一応、項目としてはそういうことをやっている。それで活動量が少ないと言われたら反省するところもあるし努力もしますが、でも、みんなが自発的に「このイベントやってくれたらいい。」と言ってくれるけど、それはある程度リテラシーが共有されてその趣旨に沿ったイベントをどんどん発意してくれる人が増えてくれれば良いのだけれど、今、単に公募したら「あなたの提案はアーバンデザインとはちょっと違うんです。」という落とし方はできないです。だからそこは難しいところなんです。

【A委員】

でも、すごいですよ、市民。

【B委員】

市民がいっぱいいるのも知ってるし、それぞれ思いがあることも分かりますが、それでもアーバンデザインセンターですから。

【D委員】

B委員の言われることはよくわかります。その通りだと思います。住みやすさのランキングを見ると、交通の便の良い所が常にトップにいる訳ではないんです。東洋経済が出しているランキング上位には富山県、石川県、福井県のあまり知らない市町が上位にくるのです。西日本で2番目にくるのは甲賀市です。甲賀市は交通の便

は全然よくないです。だから草津の次に出てくるのは芦屋市なんです。西日本で3つ出せば、草津、芦屋、甲賀なんです。交通の便だけが住みよさランキングを上げている訳ではないです。一番言いたいのは、今あるまちづくりセンターは住んでる人が要求する事によってどんどん綺麗になっていっているし、いろんな機能をもってきています。この文化をアーバンデザインセンターを作る時に議論しましょうと言っていた経緯があるのですが、UDCBKは何をするのかというと、新しくまちに入られた方がUDCBKをまちづくりセンターのように使えばいいじゃないかという議論があってもいいのかと思います。新しい方々が集まってこられるような仕組み、施設でなくてもいいと思うのですが、新しい町内会の仕組み、今の町内会のあり方がいいとは思わないです。新しい方々に合わせた仕組みも考えていかなければならないと思います。そのような議論を含めていくべきだと思いますので、1番の所はネットワーク作りが必要かだと思います。

【G委員】

ここでいうUDCBKは西友の下のあのスペースの事を言っているのですか、それともそうじゃなくて都市のデザインを考えるバーチャルを含めての組織体を言うのですか。どっちなのですか。

【B委員】

後者です。

【G委員】

この文章の書き方でいくと、あたかもあそこのハードの、例えばかっこ4のUDCBK利用状況のようにスペースの利用状況だけを言ってるように見えるので、この表現をきちんと整理して変えないとこの懇話会で議論している組織そのものがUDCBKであって、あちらの場所があくまでもハードのスペースだけであって、あそこで議論しようがここで議論しようが、草津市のまちを住みよくしようという事が議論できたらいいだけですよね。だから、ここの建物だけのUDCBKという表現を変えないと、たぶん議論が進んでいかないと思います。スペースの利用だけを考えるのはできますが、そうではないはずなのでそこは区別してもらいたいです。

【C委員】

来年度以降の事業のところ、大切な観点だと言っているのは冒頭にある、都市空間のデザインを考える観点からすると、草津駅は市の主な施設も集約されているの

ですが、南草津駅は1994年に出来て区画整理もされ民間主導で作ってこられて今のような街並みが出来ている事からすると、公共空間、パブリックスペースという観点からすると南草津はかなり弱いとっていて、駅に降りてどう見えるかというその事をどう考えていくか、草津市は2大拠点がありますから、南草津駅と草津駅と比較した時に拠点性、南草津は人が集まってくる場所なので、ここをどう考えていくかです。例えば、プリムタウンは一つのきっかけであって、この場所ができて人が増えてきたら、例えば駐輪場をどうするのかなど様々な課題が出てくるので、それを考えていくということなので、都市デザイン連携プロジェクトとしては、とりあえず手がかりとしてはここから始めるということです。先ほどD委員が言われたように、様々な課題と結び付けながら、この南草津を公共空間としてどのように魅力のあるまちにしていくのかを考えていくのに、具体的な事業の中で考え始めていけば良いのではないかと私の中では受け止めております。

【座長】

今日の議題の中で、都市デザイン連携プロジェクトのプリムタウンが議論のポイントになったわけですが、プリムタウンについてこの懇話会に対して情報の共有をしていただきたいです。プリムタウンはどのような事業でどのようなことが計画されているのか、900戸の住宅ができるわけですから、間違いなく南草津駅周辺に与えるインパクトは大きいわけですから、ざっと計算しても3千数百人の新しいまちができるのですから交通に与えるインパクトも大きくなるわけですので、駅周辺の公共施設やスペースを利用されるわけですから、ここをどう見ていくかについての議論が必要になってきますので、情報提供をお願いしたいです。アーバンデザインセンターとしてどのように関わっていくのか、そこから具体性をもって考えていく事になります。今日のところで結論が出せるようなことではない大きな事業だと思います。

【B委員】

先ほどのソフトの部分からもというところは、そう思いましたというのが私の意見の一つと、その上で空間というところにきちんと目線を合わせていくということができれば良いと思いました。この二点と関連するのですが、資料3ページの両かつこ3の、大学を活かしたまちづくりについてです。大学では地域連携課や社会連携の部門、大学があるまちなので、先ほどお話しした駅を降りた風景を考えると、そ

ここに大学生がいるということは魅力的な駅前の風景になってくると思うのです。そういう方向にどのようにしていくかということと、もう一つは、UDCBK を拠点として、学生と市民が連携していけるようなプログラムが動いていたりすると、少なくともあそこに大学生が出入りするのではないかと思うのです。そうすると風景が変わるかと思います。大学のためにと言っているわけではないのですが、大学生がワンルームマンションにいて、キャンパスと家とを行ったり来たりして、たまに居場所がないと言ってメンタルが辛くなるようにならない駅前の良さのような思いも少し入っています。これも考えていかなければと思いました。

【D委員】

少し話は逸れますが、みなくさまつりの事務局の担い手がいなくて困っています。これを UDCBK でやってくれとは言えないのですが、非常に危機的な状況にあるということを皆さんに認識してもらいたいです。野路と笠山の町内会長がいないとあのお祭りは存続しないと思います。街の発展のためにはあのお祭りは大事です。

【座長】

今日の議論は事務局に引き取っていただき、平成31年度の実施予定事業案について加筆いただきたいと思います。

4 法人化検討ワーキング部会（報告）について

【座長】

それでは、議題の4番目、法人化検討ワーキング部会での報告を肥塚委員からお願いいたします。

（肥塚委員から、資料に基づき法人化について説明。）

【座長】

ありがとうございました。法人化検討ワーキング部会としては、一旦役割を終えて、次の段階に進むということで、次年度については引き続き市が主体となって多様な組織形態を継続して検討していくということでした。ただいまの法人化検討ワーキング部会の報告について、御意見を申し上げます。

【E委員】

前回の懇話会では、本件について賛否拮抗であったかと思いますが、このような詳細な資料を付けていただきますと非常によく分かりますし、全国のUDCと比べまし

でも全く遜色のないと言いますか、柏の葉に続くのではないかと思いますので、それに見合った活動をしていかなければならないと思います。

【B委員】

UDCKは三井不動産が全面的に資金面でバックアップをしています。私がイメージするのは、個人的な意見ですが、この既成市街地でしたら滋賀銀行さんとかが全面的にバックアップしてくださると動く事は色々あるかと思います。

【E委員】

全く関係のない話ですが、県が安土城の再建に300億円を投じるという報道もあります。

【座長】

UDCKは全く新しい街を作ることから始まっているのは大きいと思います。草津は既に駅があり、歴史もある中でUDCを作っているのです、課題ややっている事も違いますね。

【E委員】

任意団体で運営されておられるところもありますので、一旦この整理で良いかと思えます。前回、事務局は法人化という思いが強かったように思うのですがその点についてはいかがですか。

【B委員】

補足ですが、この表の運営母体組織が任意団体と書いてあるところが多いですが、一方で、任意団体ではあるけれども別に独立した法人を設けていたり、任意団体が大学に寄附をして大学が運営していたりと、実働部隊はあえて別に組織化しているところがあるようです。

【E委員】

運営懇話会には途中から入ってきていますので、一年の知識しかありませんが、それが逆に市民目線でよいかと思ひ意見させていただいております。

【座長】

一旦これで法人化検討ワーキング部会での検討を終了し、ここで結論を出すわけではなく、今後多様な組織形態を視野に入れつつ、検討する主体は市が事業を継続しながら検討していくということです。しかし、いつまでも検討しているわけにはいきませんので、ある程度時間を区切ってと思いますが、市は平成31年度のどこか

のタイミングで懇話会に提案、報告していただく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

【C委員】

それは早いと思います。出来れば良いとは思いますが、しなければならぬとなると難しいと思います。

【D委員】

同じ意見です。

【E委員】

懇話会の意思決定はどのようにされているのですか。

【座長】

懇話会ですので意見を述べていただく場であり、多数決で物事を決めるわけではありません。

【事務局】

平成31年度は多様な形態を含めて検討していくのですが、市の事業ですので議会や市民の方の意見を聞きながら運営していきたいと思います。発言ついでに、1点紹介させていただきます。SDGsですが、日経の研究調査でいきますと、草津市は40位となっております。県内ではトップとなっております。これは過去からの取組や市民の理解があつての順位だと思っております。草津市は環境に優しい街という下地ができていますので、これからも立命館大学さんの動きや滋賀銀行さんの動きや市民の方の動きを参考にしながら、SDGsにも取り組んでいきたいと思います。

【座長】

法人化につきましては1年以内というわけではなく適切な時期をみて報告いただくという事で、本日の議論は終了させていただきたいと思います。

【事務局】

松原座長ありがとうございました。委員の皆様、本日は御多忙のところお集まりいただき、ありがとうございました。UDCBKは確かに運営しながら色んな課題もまだまだありますので皆様の意見を反映させながら軌道修正していきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。本日の運営懇話会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。